

単なる理解が実感として自分のものになる

福田 葉月

私は1年間、アメリカ合衆国アラスカ州にある、アラスカ大学フェアバンクス校に留学しました。アラスカに留学していたことを話すと、たいていの人には驚かれます（笑）

留学を志したきっかけは、もっと世界のことを知りたいと思ったことにありました。平和学ゼミに所属して世界のさまざまな問題を学んできましたが、「実際はどうなっているのか」という部分については未知の領域でした。そんな中で、日本と深い関わりを持つアメリカを知ることは重要だと考え、また、沖縄の米軍基地の



問題に興味があったこともあり、アメリカでは安全保障や日米同盟についてどう教えられているのだろうかという関心から、留学先としてアメリカを希望しました。2年生になるときに留学を決意したので、必要 GPA の確保、アルバイト、TOEFL の勉強などやることは山積みで両立には苦労しましたが、無事、交換留学で留学することができ、今では留学までにした苦労がとてもいい経験だったと感じています。

いざ留学すると、交換留学ということもあり現地の学生と同じ授業を受けなければならず、語学力が足りない私は苦労しました。しかし、毎日コツコツと課題をこなしたり、友達と話したり…ということ積み重ねていくうちに、だんだんと授業にもついていけるようになりました。さらに、現地での生活に慣れてくると、アメリカ社会と外から見る日本というものが、だんだんと見えるようになりました。良いところや悪いところは双方にあり優劣はつけられないこと、それは個人レベルでも同じであることを知りました。このことは当たり前のことのように思えますが、単なる理解ではなく実感として自分のものになったことは自分の大切な財産になっています。

留学が折り返しを迎えたころ、日本の友人たちは就職活動を始めており、自分の進路についても考え始めました。幸い、留学中は自分の時間が多くありましてし、選択肢として語学力が必要とされる職種や企業も視野に入れることができたので、留学により進路選択の幅が広がったと感じています。私の場合はプログラム終了が早かったこともあり、帰国後すぐに就職活動を始めました。結果、無事内定をいただいたため、4年間で卒業します。もう少し大学でゆっくり勉強に打ち込みたい気もしますが、濃い4年間で過ごすことができたと感じています。

留学で得るものは人それぞれだと思います。ですが、単なる語学学習にとどまらないことは確かです。留学に関心がある方は、ぜひチャレンジしてみてください。



Personal Data 福田 葉月 (ふくだ はづき)

留学先：アラスカ大学フェアバンクス校（米国） 交換留学

留学期間：2015年9月～2016年7月（留学時の学年：3年生）

ゼミナール：平和学研究（多賀 秀敏）所属